

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475001432	事業の開始年月日	平成23年2月1日	
		指定年月日	平成23年2月1日	
法人名	医療法人 啓和会			
事業所名	グループホーム小田			
所在地	(〒210-0846) 川崎市川崎区小田4-11-9			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日		エツト数	2エツト	
		評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www4.ocn.ne.jp/~nozue/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体である医療法人との連携を積極的に推進している。
昼夜問わず、入居者様急変に対する24時間訪問看護体制を実施。又、定期的な個人への訪問診療、外来での内視鏡検査等で入居者様のわずかな変化を見逃さないよう、日々医療・介護間で連携を図る事に努めている。更に、週1回の健康運動指導士によるリハビリ体操や、マッサージ師による訪問マッサージを行っている。他にもピアノの先生が訪問しピアノに合わせて皆で歌ったり音楽療法を行っている。又、ご家族との信頼関係強化にも努めている。
毎年実施している敬老会・クリスマス会にて家族会を開き、要望・質問等を直接伺う機会を設けている。又、入居者様の様子を文章作成し、毎月の個人の金銭出納帳の収支状況とともに郵送にてお伝えしている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月15日	評価機関 評価決定日	平成24年5月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】
この事業所はJR川崎駅からバスで10分、徒歩1分のバス通りに面した商住地に立地している。右隣が美容院で左隣が八百屋であるなど、周囲は庶民的な街である。
建物は軽量鉄骨造り2階建て新築後1年であり、清掃も行き届き清潔である。全館バリアフリーで手すりが完備されており安全である。2階へはエレベーターで移動できる。館内は煙感知器および熱感知式スプリンクラーが設置され、自動火災通報設備があり防災上の安全対策が講じられている。
母体法人は医療法人啓和会で、協力医療機関は野末整形外科歯科内科である。医療機関の他に訪問看護、訪問リハビリ、通所リハビリ、訪問マッサージ等を運営している。介護部門は、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、デイサービス、また地域包括支援センターも運営している。それ以外に独自の「健康クラブ」を運営しており、地域の高齢者向けの介護予防のリハビリトレーニングを行っている。

【医療体制の充実】
事業所には月2回、内科、整形外科、精神科が、また歯科は必要に応じて、往診に来ている。看護師は3週に2回来訪し、健康管理をしている。医療連携体制加算を受けており、24時間連携がとられている。また、訪問マッサージが週に3回来ている。利用者や家族にとって医療、健康面で安心できる体制が整備されている。

【多彩なレクリエーション活動】
毎週火曜日の健康運動指導士による、転倒予防などを目標とするリハビリ体操教室や毎週金曜日のヨガに似たゆるやかな体操である「ピラティス体操」、月3回の先生のピアノ伴奏に合わせて歌う、音楽療法などの多彩なレクリエーション活動が実施されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム小田
ユニット名	1階

アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊厳」「日常生活の「保持」「利用者の意向を尊重」「地域社会と連携」「開かれた施設づくり」等のホームの理念を貼付しており、フロア会議の話し合いにおいて、共有・実践に努めている。	「基本理念」と「職員の姿勢」を昨年の開設時に法人が定め、玄関に掲示している。職員には入職時に説明し、申し送り時や連絡ノートで周知して、共有している。	開設後1年を経過したもので、事業所として独自の理念を作りあげることが期待されます。現在の基本理念を法人理念とし、新しい理念を事業所理念として併用することが望まれます。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。近隣の方がいつでも見学できるように町内会長さんと連携している。ホームの両隣りが美容室と八百屋があり入居者様を利用し、地域交流を図っている。公園への散歩、商店への買い物等を通して地域とのつながりを実感してもらえるよう努めている。	町内会に加入し、敬老会の記念品が届けられたり、婦人会の方が来て「和おどり」を披露してくれた。近隣の方がマジックをみせてくれた。利用者は、隣近所の方々や買い物で寄る商店、散歩で会う人々と挨拶を交わして、交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの両隣りの八百屋、美容室の方にはグループホームについて説明を行っている。お客さんに施設の説明していただいている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他グループホームの管理者、川崎市の指定相談員等で利用できる地域のことなどアドバイスを受けたり、利用者の相談にのってもらい、解決に向け努力している。	今年度は5月、8月、12月の3回運営推進会議を実施している。外部参加者は町内会長、地域包括支援センター職員、大家、家族2名である。活動報告の他にグループホームの説明をし、認知症の話をし、意見交換をしている。	地域との交流促進のために、地元情報を持つ民生委員の参加を促すことが望まれます。また地域の人々に事業所を知ってもらい、認知症を正しく理解してもらうために、運営推進会議の賛同を得て、認知症講座などを開催することが期待されます。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎市事業推進課等、わからないことが発生した場合、相談にのっていただいたり川崎市の質問コーナーにて相談している。	担当窓口である川崎市高齢者事業推進課には、介護保険の取り扱いの照会をしている。事故報告、要介護認定更新代行で出向いた時に、事業所の近況を報告し、連携している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも誰でも目に付くように玄関に、「身体拘束排除宣言」を貼付している。実際、日々の申し送りやフロアミーティングで話し合っている。	「身体拘束排除宣言」を定め玄関に掲示し明示している。玄関は開放しているが、ユニット入口は家族の同意を得て施錠している。外来者は自分で解錠して入れる。居室は施錠していない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の着脱時・入浴時等に発疹、あざなどがあれば、記録・報告するようにしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだこの施設内で成年後見制度を利用している入居者がいないので理解と活用が出来ていない。今後そういった方が入居してくる事も考え、学ぶ機会を作っていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時ともに、御家族と面談の上、漏れがないよう、十分な説明を行っている。疑問点はその場で、できる限り解決を図っている。その上で契約書への記入・捺印を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や御家族の来訪時等に直接いただいたご意見・ご要望には、真摯に耳を傾け、速やかに対応している。	家族の来訪時に近況を説明している。昨年はクリスマス会の前に家族会を1回開催し、12家族が参加した。今後は年2回開催の予定である。「終末期・看取り」について家族より質問があり、説明した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや毎日の申し送りにおいて、職員が積極的に発言できる機会を設けている。そのなかで貴重な意見は全職員で共有するよう、心がけている。	毎日の申し送り時や日常の会話の中で気軽に意見や提案が出る。「月、水、金の入浴日と洗濯日を別にして作業量の平準化を図る」との提案があり、実施した。内容は連絡ノートに記録し職員間で共有している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や主任から個々の職員の評価や意見を把握し、就業環境の改善に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規に入社した職員に対し、研修期間を定め、その期間はフロアの主任・副主任を中心に指導にあたっている。また、連携しているデイサービスや他のグループホーム等へ研修に行き、幅広い介護経験を積めるよう、配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新規に入社した職員に対し、研修期間を定め、その期間はフロアの主任・副主任を中心に指導にあたっている。また、連携しているデイサービスや他のグループホーム等へ研修に行き、幅広い介護経験を積めるよう、配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話し合いを大切にしている。それまでの生活歴・ADLの状況・既往症等の把握に努める。その結果、ご本人に安心して入所を検討して頂けるよう、努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族共に施設の見学をすすめている。実際に施設を見て頂き、疑問、質問に対してお答えしている。施設を納得していただいたうえで入所につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴、ADLの状況、既往歴の把握に努めている。そのうえでご本人、ご家族が必要としている事、求めている事を話し合いの上で見極めしている。希望にて訪問マッサージをにてADLの維持・向上を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が長年培ってきた生活の知恵や職員生前の昔話等を職員側に発信できる機会を作るようにしている。また洗濯物を一緒にたたんだり、料理の盛り付けを一緒に行ったりしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	物理的に距離のある家族にご本人を日々身近に感じてもらえる様、施設内での生活の写真をご家族に送っている。またご本人と共にイベントに参加して頂いたり、家族会開催や年末年始の本人帰宅の奨励等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に対して年末にご家族から馴染みの人の住所を聞き年賀状を送り、関係が途絶えないように支援している。	行きつけの理容や美容院へ職員が付き添って行っている。自宅の近所の方が訪ねて来ると、居室やフロアでお茶とおやつでもてなし、関係継続の支援をしている。利用者の馴染みの場所へ管理者が同行して行ったり、手紙や電話の取り次ぎを支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	別フロアにいる親しい入居者に会いに行けるよう声かけ・誘導している。また、開設当初から顔馴染みの入居者同士のテーブル席を近くに配置して、会話が成立しやすいよう、工夫している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前、契約終了して円満退居された方へ、年賀状という形で手紙を送らせていただいた。関係性は大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者1人1人に担当者を充てている。担当した入居者の意向等を把握してもらうよう、努めている。	利用者毎に担当を決めている。居室の掃除を一緒にしたり、タンスの中の整理を手伝いながら思いや意向を聞き取るようにしている。意向の把握が困難な方は表情や仕草から汲み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成以降も、ご家族来訪時に随時、生活歴・生活環境等を伺い、継続的な把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録記入や申し送り、また定期的かつ継続的な訪問診療体制により、日々の状況把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーの作成した計画と課題に、御家族、職員らの意見を反映して、入居者の変化に対応した介護計画を作成している。	ケアマネジャーが担当者から報告を受け、サービス担当者会議で家族、医師の意見を入れて、介護計画を作成している。モニタリングを3か月毎に行って見直しをしているほか、急変時はその都度見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに記録ノートがあり、職員の観察による気づきや入居者の変化等を記載している。そのノートをもとに申し送りを行っている。またケアプランの見直しにも活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、訪問マッサージを提供している。また、御家族の状況に配慮し、介護保険の更新、後見人の調査官との面会等にも柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防士立会いによる避難訓練、災害講習、消火器の使用法の説明を受けている。両隣が美容室と八百屋があり、ご利用者が利用をしている。近隣の保育園児が訪問し歌を歌って頂いたり施設訪問を受け入れている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である医療法人のドクターの訪問診療を基本にしているが、かかりつけ医がいる場合は連携をとりながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	希望する医療機関で受診できるが、現在は全員が法人の協力医で受診している。内科、整形外科、精神科の往診が月2回あり、歯科は必要時に来ている。看護師は3週に2回来て24時間対応可能である。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療でドクターと同行している看護職員に、申し送りや会議で共有した気づきや変化を受診時に報告、相談している。また緊急の場合には24時間、電話で看護職員に連携が取れる体制になっており、活用している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当の看護職に施設での現状を報告している。また寝たきりや認知症の進行を予防するため、御家族の協力も得ながら、早期退院を心がけている。また退院時のサマリーを職員が通読するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルに向けた方針をまとめ、ご家族、医師、施設長、ケアマネジャーが話し合いの機会をもち、十分な説明を行い、ご家族の希望に出来るだけ沿うよう同意書を作成している。</p>	<p>重度化、看取りに関する指針を定め、入居時に説明している。入院が必要な、事業所での看取りが可能かは医師が判断する。看取りの事例はないが、関係者との連携の重要性や終末期の対応は職員も認識している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時における対応の仕方は、職員が目につくところにマニュアルが貼付してある。応急処置に関しては法人内での講習があり訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を実施し、記録を残している。フロア内には避難場所までの地図を貼用している。</p>	<p>避難訓練は年間2回、うち1回は消防署が立会い、夜間想定訓練も1回実施している。夜間帯は近隣に居住する職員の参加を要請しているが、地域の人々の協力はまだである。非常用食料、水を3日分と備品類を備蓄している。</p>	<p>避難訓練には地域住民の参加、協力が必要で、協力体制の構築が期待されます。また夜間想定訓練を実際に暗い夜間に一度経験され、そのノウハウを蓄積されることが望まれます。</p>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア内に言葉遣いや気遣い、マナーに関するポスターを職員が目にしやすい場所に貼用している。また実際、人生の諸先輩方と接する気持ちで対応するよう、心がけている。	言葉遣いや接遇については職員の採用時に法人本部で研修している。関連するポスターを職員ロッカーに掲示している。また仕事の中で先輩がOJTで指導し、徹底している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の想いを引き出せるよう、声掛けの仕方に工夫をしている。食事・おやつメニューや外出したい場所等に関するアンケートを取ったりしている。また、個別や集団も意識している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護予防や共同生活を視野に入れながらも、1人1人のライフスタイルを尊重し、出来る限りご本人の希望に沿うよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する洋服を自分で選択してもらったり、ヘアブラシをお貸ししている。また、床屋・美容院等は本人の希望に沿って行っている。地域の行きつけのお店に行ったりもしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食事やおやつアンケートをとり、それを献立に反映したり、記念日に特別メニューにしたりしている。また食材の買出しに同行してもらったり、野菜切りや味見等、調理に参加してもらったりしている。	食材は給食業者からレシピ付きで宅配される。利用者は盛り付け、テーブル拭き、お盆拭き、下膳などを出来る人が手伝っている。テレビを消して童謡や唱歌を小さく流している。職員も一緒に同じ食事を摂っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて、刻み・おかゆ・ソフト食にしたり、食事量も調整している。また毎食の摂取量を記録ノートに記載している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を作成し、毎食後に行っている。また個々に応じて義歯ブラシを使用している。また、歯磨き粉は感染予防の為、1人1本個別に用意している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意を見逃さないよう、観察、声掛けを意識している。	排泄チェック表を記録し排泄パターンの把握をしている。食事の前後、外出の前後などにも声をかけてトイレ誘導し、トイレでの排泄を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を出来るだけ促しており、また便秘の日数を記録し、申し送りにて情報共有している。外出も積極的に行っている。また野菜を多めに摂取してもらえよう、メニューを工夫している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回行っている。 入浴当日のバイタルサインや、ご本人の希望を考慮し、気持ちよく入浴してもらえよう努めている。また、女性入居者の羞恥心に配慮し、同性の介護職が対応したりして工夫している。	入浴は月、水、金の週3回、曜日を決めている。入浴したがない人には時間をあけて勧めたり、誘導の仕方を工夫して促し、利用者は少なくとも週1回は入浴している。季節にはしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、フロアでうたた寝しかけている入居者がいたら、居室で少し休むよう声かけや誘導をしたり、1人1人の体調に合わせ、休息を取れるよう、支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬の目的・副作用・用法・用量は誰でもいつでもファイルで簡単にチェックすることができるようにしている。また服薬の確認チェックリストを作成し、誤薬が起こらないよう、努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書好きの方を本屋へ連れて行ったり、歌うことが好きな方に歌い出しを担当してもらったり、TV好きな方に出来るだけ好きな番組を観てもらえるよう配慮したりしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出前に全員に質問をし、外出を希望する方を中心に支援を行っている。また、普段行けないような場所の場合は、事前に職員が企画を立案し、安心・無事故で支援できるよう努めている。	近くの公園へ10分ぐらいで行けるので、天気の良い日は車椅子の人と一緒に出かける。希望に応じて少し足をのばして神社や川崎大師にも行くこともある。季節には弁当持参の日帰り遠足として、花見、水族館、動物園、紅葉狩りに出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の扱い方を理解している方は個人でお財布・お金を所有している。また購入したいものがある場合、職員は同行し、ご本人が自分で納得したお買い物ができるように、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時は連絡が取れるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には植物を配置している。玄関窓は小さく、不快な音や光が届くことはない。また、毎月入居者が作成したちぎり絵による作品が季節感を表すものになっている。更に、カレンダーが皆の目につくところに配置されている。	築後1年で真新しく、建物内部は清掃も行き届き綺麗である。リビングは窓が大きく明るい。壁には利用者と職員が製作した大きな季節のちぎり絵やカレンダーが貼ってあり季節感がある。利用者は大きなソファでゆっくりくつろいでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛け・3人掛けソファや玄関前のベンチ等、独りになれたり、気の合う入居者同士で過ごせるよう、工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険性のない物であるならば、ご本人が居心地よく過ごせるようにするため、ご本人やご家族が使い慣れた家具や衣類、物品等、自由に持ち込んで頂いている。しかし状況の変化により、危険性が発生したものは随時、ご本人・ご家族に相談して臨機応変に対応している。	居室入口には花で縁取った額に利用者の名札と顔写真が飾ってある。ベッド、整理タンス、テレビ、仏壇などなじみの家具類を置き、壁には家族の写真や自分のぬり絵の作品を、枕元にはぬいぐるみを置いて、安心できる場所となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも歩行でも可能なバリアフリー仕様になっている。玄関から階段、廊下、トイレ、フロア、浴室等に手すりを配備している。また、フロア・居室・トイレ・キッチン・洗面所・浴室等の段差は解消している。		

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475001432	事業の開始年月日	平成23年2月1日
		指定年月日	平成23年2月1日
法人名	医療法人 啓和会		
事業所名	グループホーム小田		
所在地	(〒210-0846) 川崎市川崎区小田4-11-9		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www4.ocn.ne.jp/~nozue/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体である医療法人との連携を積極的に推進している。
 昼夜問わず、入居者様急変に対する24時間訪問看護体制を実施。又、定期的な個人への訪問診療、外来での内視鏡検査等で入居者様のわずかな変化を見逃さないよう、日々医療・介護間で連携を図る事に努めている。更に、週1回の健康運動指導士によるリハビリ体操や、マッサージ師による訪問マッサージを行っている。他にもピアノの先生が訪問しピアノに合わせて皆で歌ったり音楽療法を行っている。
 また、ご家族との信頼関係強化にも努めている。
 毎年実施している敬老会・クリスマス会にて家族会を開き、要望・質問等を直接伺う機会を設けている。又、入居者様の様子を文章作成し、毎月の個人の金銭出納帳の収支状況とともに郵送にてお伝えしている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム小田
ユニット名	2階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊厳」「日常生活の「保持」「利用者の意向を尊重」「地域社会と連携」「開かれた施設づくり」等のホームの理念を貼付しており、フロア会議の話し合いにおいて、共有・実践に努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。近隣の方がいつでも見学できるように町内会長さんと連携している。ホームの両隣りが美容室と八百屋があり入居者様が利用し、地域交流を図っている。公園への散歩、商店への買い物等を通して地域とのつながりを実感してもらえよう努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの両隣りの八百屋、美容室の方にはグループホームについて説明を行っている。お客さんに施設の説明していただいている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他グループホームの管理者、川崎市の指定相談員等で利用できる地域のことなどアドバイスを受たり、利用者の相談にのってもらい、解決に向け努力している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎市事業推進課等、わからないことが発生した場合、相談にのっていただいたり川崎市の質問コーナーにて相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも誰でも目に付くように玄関に、「身体拘束排除宣言」を貼付している。実際、日々の申し送りやフロアミーティングでの話し合っている		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の着脱時・入浴時等に発心、あざなどがあれば、記録・報告するようにしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだこの施設内で成年後見制度を利用している入居者がいないので理解と活用が出来ていない。今後そういった方が入居してくる事も考え、学ぶ機会を作っていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時ともに、御家族と面談の上、漏れがないよう、十分な説明を行っている。疑問点はその場で、できる限り解決を図っている。その上で契約書への記入・捺印を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や御家族の来訪時等に直接いただいたご意見・ご要望には、真摯に耳を傾け、速やかに対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや毎日の申し送りにおいて、職員が積極的に発言できる機会を設けている。そのなかで貴重な意見は全職員で共有するよう、心がけている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や主任から個々の職員の評価や意見を把握し、就業環境の改善に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規に入社した職員に対し、研修期間を定め、その期間はフロアの主任・副主任を中心に指導にあたっている。また、連携しているデイサービスや他のグループホーム等へ研修に行き、幅広い介護経験を積めるよう、配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新規に入社した職員に対し、研修期間を定め、その期間はフロアの主任・副主任を中心に指導にあたっている。また、連携しているデイサービスや他のグループホーム等へ研修に行き、幅広い介護経験を積めるよう、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>話し合いを大切にしている。それまでの生活歴・ADLの状況・既往症等の把握に努める。その結果、ご本人に安心して入所を検討して頂けるよう、努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人、ご家族共に施設の見学をすすめている。実際に施設を見て頂き、疑問、質問に対してお答えしている。施設を納得していただいたうえで入所につなげている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>生活歴、ADLの状況、既往歴の把握に努めている。そのうえでご本人、ご家族が必要としている事、求めている事を話し合いの上で見極めしている。希望にて訪問マッサージをにてADLの維持・向上を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人が長年培ってきた生活の知恵や職員生前の昔話等を職員側に発信できる機会を作るようにしている。また洗濯物を一緒にたたんだり、料理の盛り付けを一緒に行ったりしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>物理的に距離のある家族にご本人を日々身近に感じてもらえる様、施設内での生活の写真をご家族に送っている。またご本人と共にイベントに参加して頂いたり、家族会開催や年末年始の本人帰宅の奨励等を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人に対して年末にご家族から馴染みの人の住所を聞き年賀状を送り、関係が途絶えないように支援している。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>別フロアにいる親しい入居者に会いに行けるよう声かけ・誘導している。また、開設当初から顔馴染みの入居者同士のテーブル席を近くに配置して、会話が成立しやすいよう、工夫している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>以前、契約終了して円満退居された方へ、年賀状という形で手紙を送らせていただいた。関係性は大切にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者1人1人に担当者を充てている。担当した入居者の意向等を把握してもらうよう、努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成以降も、ご家族来訪時に随時、生活歴・生活環境等を伺い、継続的な把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録記入や申し送り、また定期的かつ継続的な訪問診療体制により、日々の状況把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーの作成した計画と課題に、御家族、職員らの意見を反映して、入居者の変化に対応した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに記録ノートがあり、職員の観察による気づきや入居者の変化等を記載している。そのノートをもとに申し送りを行っている。またケアプランの見直しにも活用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、訪問マッサージを提供している。また、御家族の状況に配慮し、介護保険の更新、後見人の調査官との面会等にも柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防士立会いによる避難訓練、災害講習、消火器の使用法の説明を受けている。両隣が美容室と八百屋があり、ご利用者様が利用をしている。近隣の保育園児が訪問し歌を歌って頂いたり施設訪問を受け入れている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である医療法人のドクターの訪問診療を基本にしているが、かかりつけ医がいる場合は連携をとりながら、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療でドクターと同行している看護職員に、申し送りや会議で共有した気づきや変化を受診時に報告、相談している。また緊急の場合には24時間、電話で看護職員に連携が取れる体制になっており、活用している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当の看護職に施設での現状を報告している。また寝たきりや認知症の進行を予防するため、御家族の協力も得ながら、早期退院を心がけている。また退院時のサマリーを職員が通読するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルに向けた方針をまとめ、ご家族、医師、施設長、ケアマネージャーが話し合いの機会をもち、十分な説明を行い、ご家族の希望に出来るだけ沿うよう同意書を作成している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時における対応の仕方は、職員が目につくところにマニュアルが貼付ある。応急処置に関しては法人内での講習があり訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を実施し、記録を残している。フロア内には避難場所までの地図を貼用している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア内に言葉遣いや気遣い、マナーに関するポスターを職員が目にしやすい場所に貼用している。また実際、人生の諸先輩方と接する気持ちで対応するよう、心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の想いを引き出せるよう、声掛けの仕方に工夫をしている。食事・おやつメニューや外出したい場所等に関するアンケートを取ったりしている。また、個別や集団も意識している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護予防や共同生活を視野に入れながらも、1人1人のライフスタイルを尊重し、出来る限りご本人の希望に沿うよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する洋服を自分で選択してもらったり、ヘアブラシをお貸ししている。また、床屋・美容院等は本人の希望に沿って行っている。地域の行きつけのお店に行ったりもしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食事やおやつアンケートをとり、それを献立に反映したり、記念日に特別メニューにしたりしている。また食材の買出しに同行してもらったり、野菜切りや味見等、調理に参加してもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて、刻み・おかゆ・ソフト食にしたり、食事量も調整している。また毎食の摂取量を記録ノートに記載している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を作成し、毎食後に行っている。また個々に応じて義歯ブラシを使用している。また、歯磨き粉は感染予防の為、1人1本個別に用意している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意を見逃さないよう、観察、声掛けを意識している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を出来るだけ促しており、また便秘の日数を記録し、申し送りにて情報共有している。外出も積極的に行っている。また野菜を多めに摂取してもらえるよう、メニューを工夫している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回行っている。入浴当日のバイタルサインや、ご本人の希望を考慮し、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。また、女性入居者の羞恥心に配慮し、同性の介護職が対応したりして工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、フロアでうたた寝しかけている入居者がいたら、居室で少し休むよう声かけや誘導をしたり、1人1人の体調に合わせて、休息を取れるよう、支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬の目的・副作用・用法・用量は誰でもいつでもファイルで簡単にチェックすることができるようにしている。また服薬の確認チェックリストを作成し、誤薬が起らないよう、努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書好きの方を本屋へ連れて行ったり、歌うことが好きな方に歌い出しを担当してもらったり、TV好きな方に出来るだけ好きな番組を観てもらえるよう配慮したりしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出前に全員に質問をし、外出を希望する方を中心に支援を行っている。また、普段行けないような場所の場合は、事前に職員が企画を立案し、安心・無事故で支援できるよう努めている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の扱い方を理解している方は個人でお財布・お金を所有している。また購入したいものがある場合、職員は同行し、ご本人が自分で納得したお買い物ができるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時は連絡が取れるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には植物を配置している。玄関窓は小さく、不快な音や光が届くことはない。また、毎月入居者が作成したちぎり絵による作品が季節感を表すものになっている。更に、カレンダーが皆の目につくところに配置されている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛け・3人掛けソファや玄関前のベンチ等、独りになれたり、気の合う入居者同士で過ごせるよう、工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険性のない物であるならば、ご本人が居心地よく過ごせるようにするため、ご本人やご家族が使い慣れた家具や衣類、物品等、自由に持ち込んで頂いている。しかし状況の変化により、危険性が発生したものは随時、ご本人・ご家族に相談して臨機応変に対応している。		

55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも歩行でも可能なバリアフリー仕様になっている。玄関から階段、廊下、トイレ、フロア、浴室等に手すりを配備している。また、フロア・居室・トイレ・キッチン・洗面所・浴室等の段差は解消している。		
----	--	--	---	--	--